

＝ 初心・安心 ＝

第9期のスタート早々、しかも定期大会を控えた組合も多い中で、第48回衆議院議員総選挙の対応を余儀なくされた。どう見ても大義なき保身のための解散としか映らなかったが、選挙の結果は野党にとって厳しいものとなった。

私たちは、賽を投げられた以上、解散の是非が問われ、新党結成や民進党の合流など解の見えない複雑な状況を承知の上で、基幹労連政策の実現に向けて整齐と取り組みを進めていくこととした。しかし、日が経つにつれ政権選択選挙の色合いは影を落とし、野党にとって徐々に戦局は悪化、安倍一強政治の牙城を崩すには至らなかった。また、政策推進のパートナーである基幹労連国政フォーラム議員全員の当選が成し得なかったことは悔しい限りであるが、難しく厳しい状況の中で、各組織の懸命な取り組みと、組合員をはじめとする、ご家族、OB、関係者の皆様のご協力に心から感謝申し上げる。

今後の展望を見出すには、選挙後の各政党・政治家の動向も含め、今少し時間がかかるだろうが、私たちは、政策の実現に向け事の本質を見誤ることなく、軸をぶらさず国政フォーラム議員との緊密な連携をはかりながら腰を据えて対応していかなければならない。

選挙は、選択という行為を伴う。その選択とは、二つ以上のものの中から、条件に合ったもの、また、より良いものを選び出すこと。取捨選択という言葉もあるが、投票率から見ても選択という行為をも捨てた方が多いことが気にかかる。もとより、今回、選択肢そのものの存在があったかも問われるが、私たちは今期の運動方針に掲げた政策実現活動の再構築に向けて、これらを精査し次なる準備に生かしていかなければならない。

一方、今回の衆議院議員総選挙をもって、27年間にわたる長い間、働く者・生活者の目線を大切に、ものづくり産業・企業の発展に御尽力をいただいた高木義明氏が勇退された。政策実現のための大きな柱を失ったような思いに駆られるが、時代変化の中でも軸をぶらさず整齐と政治活動を進めてこられた思いを引き継いでいかなければならない。そして、高木氏の議員活動を支えてきた石塚秘書も今回をもって勇退された。基幹労連事務局次長から秘書となられて9年、ご苦勞もあったろうが大臣、省庁要請の対応等を含め大変お世話になった。また、田中秘書は13年振りに基幹労連へ復帰した。労いととも、温かく迎えていただきたい。

10月もあとわずか。都内のあちらこちらでハロウインの飾り物が目につく。元々ハロウインは10月31日に行われるアイルランドに伝わる「サーウイン」という古代ケルト人の先祖を迎えるお祭りだったという。それが終わるともう11月、基幹労連定期大会から2ヵ月が過ぎることとなる。

この秋の役員改選で、新たな任に就いた方も多かろうが私もその一人。新たな立場に立ったとき、何かを始めようとしたときによく使われる言葉に初心貫徹(初めに心に決めた志を最後まで貫き通すこと。)があるが、あまり気持ちを張り詰めると、できることもできない。少し力を抜いて取り組むために、初心・安心という言葉は単組役員時代に当時の組合長に教わった。力みすぎず任に就いた時の思いを忘れぬことが大事、ということである。

それぞれの役割と立場で、初心・安心を胸に事にあたっていかなければならないが、職に就いた時の一丁目一番地は、「元気に出勤、笑顔の退勤」であったはずである。あらためて、全ての取り組みの基軸は、安全と健康であることを互いの肝に銘じておきたい。

「命は大切ですと言われるより、貴方が大切ですと言われる方が生きていける。(W シスター語録)」心を込めて、「ご安全に！」相手の思いに立った声掛けは、心身共の安全と健康につながることを忘れることなく。

ご安全に

2017年10月26日

日本基幹産業労働組合連合会

中央執行委員長 神田 健一